

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2021年3月1日発行号

VOL.38



各グループからの
意見・アイデア



私たちの未来社会と 高速道路の姿を描く

2020.7.13

7月13日(月)に岐阜大学で、岐阜大学生、中日本高速道路(株)名古屋支社岐阜・保全サービスセンター社員、十六銀行行員の計33人が参加し、ぎふフューチャーセンターを中日本高速道路(株)名古屋支社と共同開催しました。ポストコロナ社会における未来社会を支える高速道路の姿について考え、新しい生活や社会を実現する高速道路のあり方の創出について活発な対話を行いました。

今回のまとめ

- 「夢の道」(電気自動車走りながら充電できるようにする(路面に充電設備を作るなど))
- 「人が集う高速道路」(日本各地の特産品や名産品を販売するワゴンカーの設置など、観光地化するなど)
- 「環境&観光」(余っている土地に樹木や草花を植えるなど)
- 「便利で多様な高速道路」(ドライブスルーを設置するなど)
- 「眠らない高速道路」(自動運転レーンを作り、快適な運転ができるようにするなど)

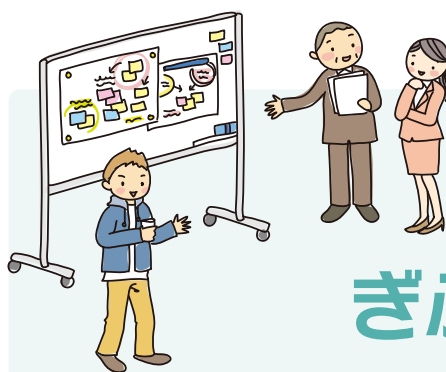
今後の展開

今回出された意見やアイデアを活かし、中日本高速道路(株)は国土交通省「『ポストコロナの道路の取り組み』の提案」に応募しました。

担当者の感想

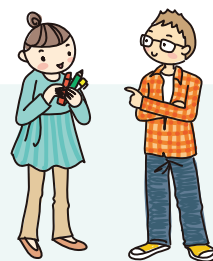
(中日本高速道路(株)名古屋支社岐阜・保全サービスセンター)

学生の柔軟な発想に触れることができ、楽しいひと時となりました。また、弊社の若手社員にとっても刺激的な場になったことと思います。



ぎふフューチャーセンターは
岐阜大学COC事業の取組みの一環です

ぎふフューチャーセンター



岐阜大学は、地域の課題を探りその解決策を考えるため、大学生、大学教職員、地域住民の対話の場である「フューチャーセンター(Future Center)」を定期的で開催しています。

ぎふフューチャーセンターとは、岐阜大学COC事業の取組みの一環で、複雑化した地域の課題等について、多様な人々が集い「未来志向」、「未来の価値創造」といった視点から議論する対話の場のことです。今年度は、コロナ禍で大きく社会が変化しましたが、実りあるフューチャーセンターを3回開催することができました。



CCSC
ccsc.gifu-u.ac.jp

地域協学センター
TEL.058-293-3880
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 Tel.058-230-1111(代表)
Fax.058-293-3881 E-Mail ccsc@gifu-u.ac.jp



MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構



岐阜大学

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信



私たちの岐阜市、 これからの20年を考える ～SDGs未来都市岐阜市～



2020.12.18

12月18日(金)にみんなの森ぎふメディアコスモスで、岐阜大学生、地域住民等の計30人が参加し、ぎふフューチャーセンターを岐阜市(未来創造研究室)と共同開催しました。新型コロナウイルスの流行に伴い、暮らし方の変革、デジタルの加速とリアルとの融合など、これまでとは異なる生活様式への移行を余儀なくされ、さらに今後もこの新しい生活様式が続くと考えられています。そこで、20年後の岐阜市を見据えて、多様なワークスタイル・ライフスタイルにあった、「住みやすい、暮らしやすい、魅力的なまち」について考えました。



今回のまとめ

提案された岐阜市の将来像

- 「とんがった夢をカタチにする岐阜市」
- 「骨を埋めたい岐阜市」
- 「大人も子供もワクワクできるクリエイティブな岐阜市」
- 「チョイスできる岐阜市」
- 「人と人がつながる温かい町岐阜市～ずっと住み続けたい岐阜市～」

各グループからの
意見・アイデア

今後の展開

提示された意見は、今後、岐阜市の取り組みや施策に活用される予定です(柴橋市長の講評より)。

担当者の感想

岐阜市(未来創造研究室)

皆さんから岐阜市の未来のまちづくりに関する尖ったアイデアをたくさん提案してもらい、私たちもワクワクしました。今後も皆さんと一緒にSDGsの取り組みをさらに進めていきたいです。

重要文化財・早川家住宅、 おちよぼさんとの活用を考える

2021.1.15

1月15日(金)に海津市早川邸にて、岐阜大学生7人が参加し、ぎふフューチャーセンターを海津市教育委員会と共同開催しました。千代保稲荷参道西に位置する早川家住宅は、2019年9月30日に国の重要文化財に指定されました。海津市は「早川家住宅保存活用検討委員会」を2020年度より設置し、今後の住宅保存及び活用についての検討を開始しています。今回のフューチャーセンターでは、現地ガイドによる千代保稲荷の見学と重要文化財である早川邸の当主の案内による敷地や家屋の見学にもとづき、隣接する千代保稲荷とのつながりを踏まえた早川家住宅の活用について、議論が交わされました。



今回のまとめ

- 「千代保つと(ちよぼつと)こんかね夜ふかしカフェ」(人が立ち寄り、庭のライトアップなども含めた寛ぎの空間としての活用)
- 「華族になろうよ(※ただし早川家は華族ではない)」(贅沢で豪華な作りの家屋を体験できる空間としての活用)

各グループからの
意見・アイデア



今後の展開

「早川家住宅保存活用検討委員会」の取り組みの参考とされます。

担当者の感想

(海津市教育委員会)

若い大学生の方々の発想が、今後の進むべき方向の道しるべになってくれるのではないかと感じた。「地元で元気を、人々に笑顔を」を与えてくれることに期待と感謝を持ち、アイデアを実現可能に導いていければ活力のあるまちづくりに繋いでいくことができる。